

カーネーションの短期一斉切り周年生産 における品種特性

1. 試験のねらい

カーネーションの短期一斉切り栽培は、目的とする時期に大量に生産でき、しかも株元から切るため長桿で出荷できるメリットがある。短期一斉切り栽培を行う場合、カーネーションは品種の早晩生や生育する季節により、定植から開花までの到花日数や採花期間は変わってくる。そこで、定植時期をずらして栽培し、定植時期別に有効な使用する品種の早晩生について検討する。

2. 試験方法

- (1) 試験場所：農業試験場 本場 パイプハウス（土壌 表層多腐植質黒ボク土）
- (2) 供試品種：マレア（早生系）
バーバラ（中生系）
スカーレットクィーン（晩生系）
- (3) 養水分管理：養液土耕法により養水分は管理した。施肥量は簡易栄養診断により土壌中の硝酸態窒素を25ppmを目安に、灌水量はpFメーターにより地下15cm付近が、2.0～2.2になるように管理した。
- (4) 栽培概要：1996年6月25日～12月15日まで毎月セル成型苗を定植した。幅85cmのベッドに10cm角8目フラワーネットを用い、株間10cm、条間20cm、中2条抜き6条植え、栽植密度36株/m²（実面積）とした。定植から20日後にピンチし、主茎あたり4本仕立てにした。冬季は加温し、最低夜温10℃を維持した。
- (5) 調査方法：開花した分枝から随時採花し、到花日数、切り花品質を調査した。

3. 試験結果および考察

- (1) 到花日数は、6、7月定植では早生品種が中・晩生品種よりも1～2ヵ月短い、9～12月定植は品種間で際立った差異はみられなかった（図-1）。
- (2) 採花期間は、冬季の短日寡日照の条件下で長くなり、長日条件下になると短縮される傾向にあった（図-1）。
- (3) 施設の利用率を向上させるために、採花期間が冬季が中心になる場合は、栽植密度を減らすか仕立て本数を減らして、採花期間の短縮を図る必要がある。
- (4) 切り花の品質は、切り花長、切り花重など到花日数が長くなるほど向上する傾向にあった（表-1）。

4. 成果の要約

カーネーションの短期一斉切り周年生産において、品種の早晩生の違いによる定植時期別to花数は、6、7月定植は早生品種が中・晩生品種よりも短くなるが、9～12月定植では品種の早晩生による違いはみられない。6、7月定植で中・晩生品種は採花期間が長いので、施設の利用率の向上を考えると早生品種の使用が有効であり、9～12月定植では、品種の早晩生による到花日数、採花期間にあまり差がないことから、ボリュームのとりやすい中・晩生品種の使用が有効である。

（担当者 花き部 船山卓也）

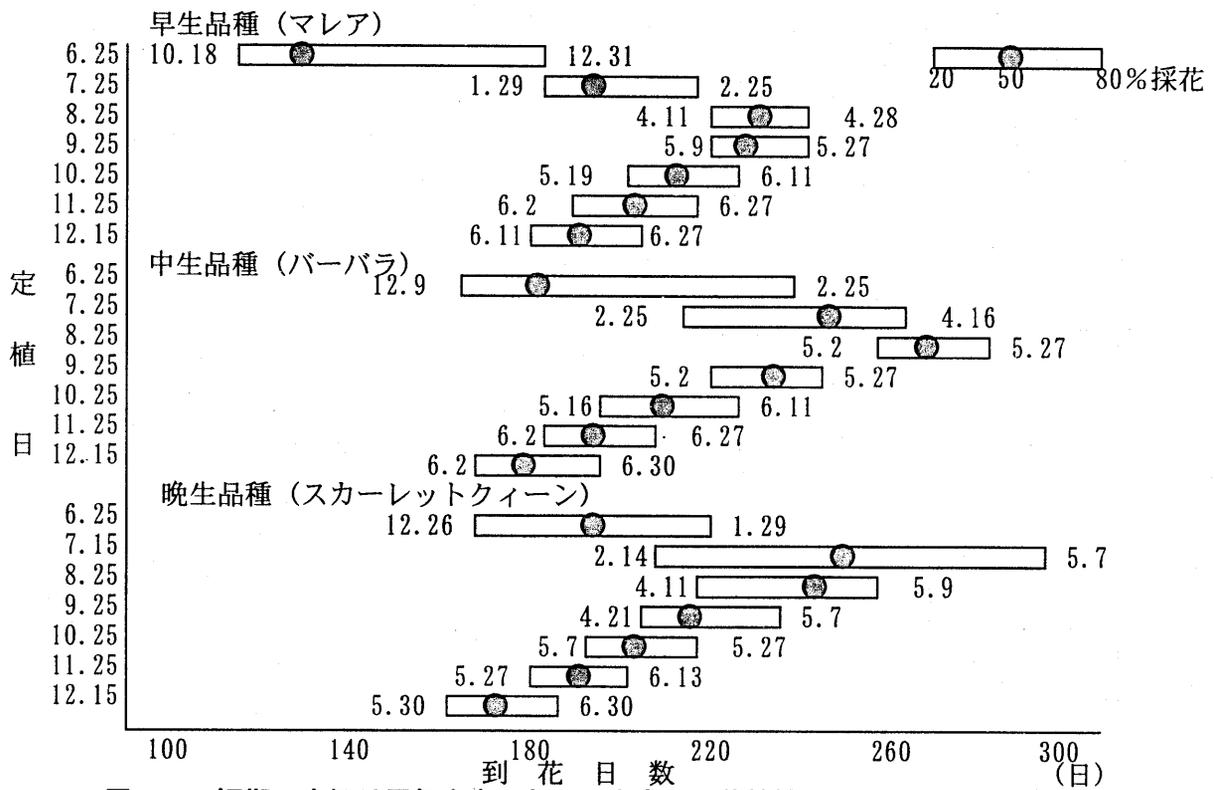


図-1 短期一斉切り周年生産における生育・開花特性

表-1 定植時期別の切り花品質

定植 (月・日)	品 種	草 丈 (cm)	生体重 (g)	節 数	茎 径 ¹⁾ (mm)	着花数	下垂度 ²⁾
6.25	マレア	59.8±3.2	27.7±5.9	11.1±1.0	4.0±0.5	4.1±0.3	1.2±0.4
7.25		66.7±8.9	41.4±10.0	10.4±1.0	5.4±0.5	4.6±0.9	1.0±0.0
8.25		76.2±10.1	50.3±13.6	12.1±1.2	5.7±0.3	5.7±0.9	1.0±0.0
9.25		85.1±6.1	53.4±13.3	12.2±1.0	5.6±0.6	6.7±1.3	1.0±0.0
10.25		65.1±6.5	30.9±11.1	12.1±1.1	5.1±0.6	4.5±1.9	1.0±0.2
11.25		61.0±7.2	27.5±8.1	11.6±1.0	4.9±0.7	3.5±1.4	1.0±0.3
12.15	59.8±3.2	27.7±5.9	11.1±1.0	4.0±0.5	4.1±0.3	1.2±0.4	
6.25	バーバラ	69.1±4.1	40.4±11.6	12.3±1.2	4.9±0.6	5.4±1.1	1.3±0.4
7.25		66.3±6.6	51.1±9.9	13.1±1.7	5.8±0.4	6.6±1.4	1.0±0.0
8.25		68.7±6.2	39.6±17.1	13.0±1.6	5.6±0.7	5.8±2.1	1.0±0.2
9.25		78.8±6.2	53.5±17.3	12.5±1.4	5.9±0.7	7.2±1.7	1.1±0.3
10.25		57.6±7.2	23.8±9.2	11.3±1.3	5.0±0.5	5.0±1.6	1.0±0.1
11.25		59.3±5.6	26.7±9.4	11.7±0.8	4.7±0.5	4.5±1.6	1.1±0.3
12.15	70.2±8.5	37.2±11.6	11.6±1.9	5.4±0.5	6.4±2.0	1.1±0.3	
6.25	スカーレットクィーン	79.6±6.8	46.9±6.2	14.0±0.9	4.8±0.4	5.0±0.5	1.1±0.4
7.15		69.3±6.5	52.8±13.0	13.1±2.7	5.7±0.5	6.5±1.5	1.0±0.1
8.25		63.0±4.7	37.6±8.5	13.9±1.6	5.3±0.4	6.0±2.0	1.2±0.4
9.25		69.4±5.4	50.2±12.5	12.0±1.2	5.9±0.6	6.7±1.4	1.0±0.2
10.25		56.2±7.5	32.1±13.0	11.7±1.5	5.3±0.6	5.9±1.8	1.0±0.2
11.25		58.3±7.9	29.5±12.1	11.0±0.9	5.1±0.6	5.5±1.7	1.0±0.2
12.15	63.0±8.1	39.2±13.0	11.2±0.7	5.5±0.6	5.7±1.8	1.2±0.6	

1) 第5節間を調査

2) 切り花の先端から45cmの位置で水平に保ち、支点と頂花を結ぶ角度が1:10°未満
2:10°~20°, 3:20°~30°, 4:30°以上